

「自ら学び 高め合う児童の育成」

～「話す・聞く」を意識した言語活動を充実させ、伝え合う力を育む指導を通して～

I 主題設定の理由

学習指導要領や山梨県学校教育指導重点の方針にもあるように、確かな学力の定着を図った上で、自ら学び自ら考える力を育てることや伝え合う力を育てる児童の言語活動の充実が今日の学校教育において取り組むべき課題であると考えられる。本校の学校経営の努力点の中には、「生きる力をはぐくむ教育活動の充実に努める」という項目があり、学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育み、読書活動の充実や教育活動全体を通じて、自立する児童の育成に努めることを具体策として挙げている。自分の考えを自分の言葉や文、図、式などで伝え合い、話し合い、自分の考えを深め、「分かった」「できた」「一緒に学んで良かった」と思う授業を積み重ねていくことにより、目標が達成できると考えている。

上記のことから、今年度は、「話す・聞く」を意識した言語活動を充実させ、伝え合う力を高めていくというところに視点をあてて取り組んでいきたい。人に言われたこと、与えられたことだけを行うのではなく、主体的に疑問を抱き考え、主体的に取捨選択し、主体的に考えたことを表現し伝え合うことで、互いがより一層高め合えるような児童の育成を目指していきたい。

II 研究の内容

1 研究の内容と具体的方法

(1) 研究の内容

- ・全体研究の授業案検討 ・授業研究 ・授業実践（一人一実践）とそのふりかえり
- ・学力分析情報共有 ・つらぬき指導の実施 ・英語科の評価について
- ・教育課程学習会環流報告 ・話すこと聞くことハンドブックについて還流報告
- ・学力向上に関わる研修・講演会等の還流報告 ・研究のまとめ ・研究紀要作成

(2) 研究の具体的方法

- ア 文献・資料等を参考にしながら理論研究を進め、全体研究会の場では討議や情報交換を行い全職員の共通理解を図る。
- イ 必要に応じて児童の実態調査を実施し、結果を分析・考察する。
- ウ 研究授業や一人一実践を通して、日々の実践を生かし仮説を検証していく。
- エ 各種研修会・研究会に積極的に参加し、還流報告を行う。
- オ 研究収録を作成し、今後の教育活動の資料とする。

2 具体的実践

(1) 授業実践

ア 授業研究

第5・6学年	音楽科「言葉を使ったリズムアンサンブル」	授業者 竹川 美和 教諭
目 標	○言葉がもつ語感や言葉から生まれるリズムを感じ取り、拍の流れにのりながら音楽の仕組みを生かして、言葉を使ったリズムアンサンブルをつくる。 ・くり返し方や重ね方などを工夫して、自分たちの言葉を使ったリズムアンサンブルをつくる。	

イ 授業実践

学年	教科	単元・題材名	授業者
第1・2学年	体育	「マット遊び」	鈴木 陸人教諭
第2学年	国語	「あったらいいな こんなもの」	本宮 知子教諭
第3学年	算数	「いろいろな問題にちょうせんしよう (活用)」	武井 茂 教諭
第3・4学年	音楽	「いろいろな音のひびきを感じとろう」	今井 郁子教諭
第5学年	総合	「マイツリーを通して自然に目を向けよう」	向山 潤 教諭
こなら学級	自立学習	「スリーヒントカードで遊ぼう」	阿部かおり教諭

(2) 学力分析情報共有

第3学年、第5学年の山梨県学力把握調査と、第6学年の全国学力学習状況調査において、結果分析を行い、児童の実態把握と今後どのような支援が必要かを討議した。

III 成果と課題

1 成果

- ・伝え合うという点で、普段の授業内での考える→書く(まとめる)→話す(発表する)・聞く→質問・意見する→考える…といった流れができ、児童に身につけてきている。
- ・継続研究をしている中で、必要に応じた取り組みの精選ができ、全校統一した効果的な学習の取り組みが行うことができた。
- ・「話す・聞く」について、5年生は“言語活動ハンドブック”，低学年は教室の話すこと聞くことに関する掲示物を頼りに進めることができた。
- ・全国・県の学力把握調査分析の情報共有や学力向上にかかわる還流報告等、全職員で本校児童の様子や傾向、参考になる実践例等の共有が図られ、個々の授業力を向上させることができた。
- ・一人一実践の授業後の研究会は有意義な時間となっていた。また、その後の全体への報告も大いに参考になった。

2 課題

- ・研究方法や日程調整の部分で課題があった。
- ・より有効な話し合いの方法やルールを児童に合うかたちに直して実践していく必要がある。

III 成果物

- ・授業研究・授業実践の授業案(ワークシート・資料等も含む)

(研究主任 向山 潤)